豊かに学び続け 未来を拓く力をはぐくむ中丹の教育

中丹の教育 まなび通信

京都府中丹教育局
第209号
令和７年12月８日

令和７年度 学力充実会議

開催日：令和７年９月26日（金）

昨年度作成の「中丹のまなび15」で示しましたとおり、学習者が主体的に学ぶ中で自ら学習を調整しつつ資質・能力を身に付けることが重要であるため、本年度より中丹教育局の重点取組「確かな学力の育成」では、「主体性や学びを調整する力をはぐくむ授業づくり」の推進を掲げています。会議では管内の学力に関する課題をもとに児童生徒の自己調整力を高めるための授業づくりとそのポイント、授業者の役割について共有を図るとともに、香川大学教育学部 准教授 岡田　涼 様から「学びを調整する力をはぐくむ授業づくり」について講義をいただき、学びを深めました。

中丹プロジェクト21研究発表から見えてきた課題

①本時の目標を達成したかどうかを「見取る場面」が授業の中に設定されていない。
②本時の目標に対する「評価規準」が設定されていない。

授業者が児童生徒の学習状況を的確に把握できていない。
↓
授業改善や児童生徒への適切な助言が行えない。

児童生徒が自身の学習状況を正確に把握できていない。
↓
適切に自己調整を図ることができない。

だから

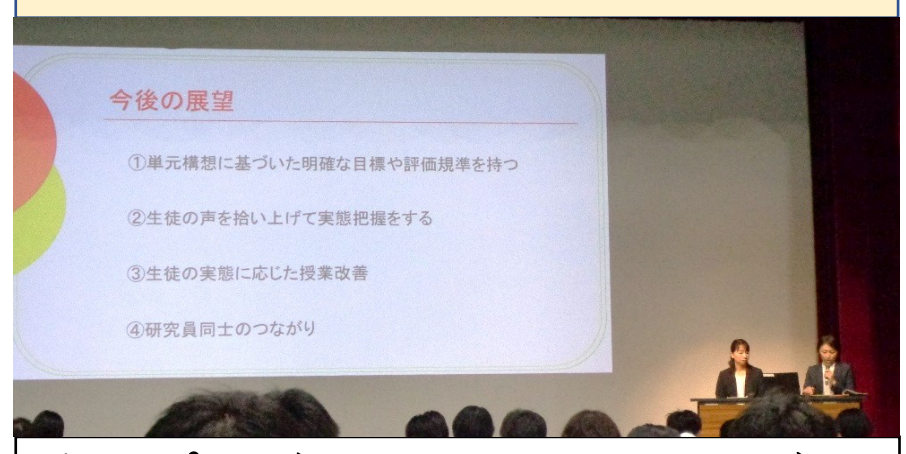
大切にしたい授業づくりのポイント

- **「本時の目標」の設定と共有**
  →設定にあたり、授業の「ねらい」につながるものとなっているかが重要です。
- **「評価規準」の設定と共有**
  →上位層をさらに伸ばすために「十分に満足できる状況」の設定も大切です。
- **学習状況を「見取る」場面の設定**
  →児童生徒が１人で取り組む「適用題」と「振り返り」の設定が必要です。その際、振り返る視点を明確に提示し、児童生徒と共有することが重要です。

そして

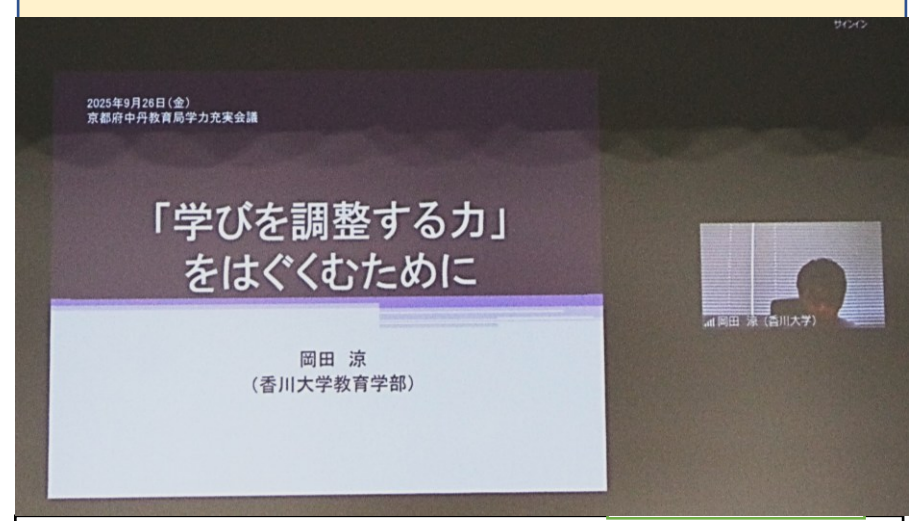
授業者は「適用題」等の解答状況や「振り返り」の記述内容をもとに、**次時の学習活動の見直しをはじめ、児童生徒への適切な助言を行う**ことが重要です。⇒「形成的評価」の重要性＝「指導と評価の一体化」の充実

研究発表をお世話になり、ありがとうございました。



中丹プロジェクト21アドバイザー
福知山市立日新中学校
数学科　　小瀧　千富美　教諭
舞鶴市立青葉中学校
外国語科　河井　仁美　教諭

講義をお世話になり、ありがとうございました。



香川大学教育学部
准教授　岡田　涼　様

児童生徒の自己調整する力をはぐくむ授業づくりの視点や学習状況を見取るために評価規準の設定の重要性について

参加者の振り返り

- 子どもの力を伸ばすために、学力をつけるために、**評価規準を明確化し、変容を見取るべく子どもの振り返りを大切にする**ことの重要性において意識が高まりました。
- **評価がぼんやりしていると指導することもぼやけ、評価も適切にできないと感じました**。評価規準を明確にして指導することの大切さを実感しました。
- **目の前の生徒に対して、その実態に応じた単元構想や計画が必要**であることに改めて気付きました。**生徒への目標や評価規準の明確な提示の重要性**について、伝えていくべきと感じました。